

## 【91】”対岸の火事”か”他山の石”か

人間社会には一般的の交通事故を筆頭にして多種多様な事故がありますが、全くの不可抗力によるものは例外的で、大抵の場合、事故のプロセスの何処かに、人間の過失、ミスが関係しています。

ミスは時としてケアレスミスとも云われ、人間の不注意や怠慢によるもので過失と見做された時代もありますが、多くのミスは人種、民族、国籍等に関係ない、生物としての人間の本質的な性質によるものです。

すなわち人間はコンピューターや機械と異なり、ミスをする存在なのです。（その代わり、コンピューターなどには故障があります。）

従って、他国で発生した事故であっても、その事故の状況、経過、原因を探り、そこにどういうミスが関与したかを知ることは、わが国で同様の事故の発生を防止することになる絶好の機会なのです。

古いことわざの”他山の石”と言う考え方です。

他国で生じた災害の原因を、その国の人々の性質や習慣に基づく特殊なものとし、我々には関係ないとする偏狭な考えでは、その事故を”対岸の火事”と見做して何も学ばないことになります。

以上の話は事故に限らず災害にも当てはまります

1989年のアメリカのサンフランシスコ地震で2階建ての高速道路が崩壊したとき、日本は耐震設計してあるからあんなことは起きないと道路関係者は軽視して（TVでわざわざ我が国高速道路の安全性を強調した課長もいた）、

1995年の阪神淡路大震災での高速道路の高架の倒壊に到るのです。

2003年のお隣り韓国の大邱（テグ）の地下鉄の電車火災で大勢の死者を出したとき、日本の専門家の言では、わが国の車輌は耐火性能が高いので燃えることはないとの御託宣でしたが、2011年の北海道JR石勝線の火災では6両編成の特急が全車輌完全に燃えてスクラップ化してしまいました。死者が生じなかったのは乗客の好判断で避難が適切だったからです。

”明日は我が身”と言うことわざ通りなのです。

他国の事故や災害について学び、考えをめぐらすことは、自分たちの事故や災害を防止するのに役立ちます。